◆ 広島県立歴史博物館へ見学に行きました ◆

平成 27 年6月5日（金）

６年生は，社会科で日本の歴史を学習しています。その学習の一環として，歴史博物館に見学に行きました。ここでは，中世・瀬戸内に存在した「草戸千軒」の集落跡の一部が復元されています。他にも，古代の土器や石器，近世の船の模型など，多くの展示品があります。

銅鐸を鳴らして昔の人が聞いた音を聞いたり，土器や石器を見て，昔の人の生活を想像したりしました。昔の人が埋葬された石棺を見て，「僕たちが入れるくらいの大きさだから，昔の人はあまり背が高くなかったのかな？」と考える児童もいました。「もっと見たかった。」，「資料でさらに調べてみたい。」と言う声も聞かれ，改めて子どもたちの学習意欲の高さを感じました。これをきっかけに，他の博物館，美術館などにも興味を持ち，訪ねていってくれたら，と思います。

◆ 大きく育っています ◆

平成 27 年6月2日（火）

近頃，ぎんがの郷の小学校では,子どもたちの育てているたくさんの植物が芽を出し成長し始めました。４年生のヘチマ,３年生のホウセンカ,２年生のトマトにサツマイモ,そして１年生のアサガオです。どの学年の児童も毎朝, 自分の苗に水やりをして成長を楽しみに見守っています。

特に１年生は,自分で鉢に土を入れるところから始めたアサガオの成長を喜んでいます。「大きく育ってね。」,「きれいな花がさくといいな。」と願いを込めて種をまくと,１週間もたたないうちに芽がでてきました。みんな目をキラキラさせながら芽がでたことを報告にきてくれました。子どもたちは毎日,水と愛情を小さな苗にしっかりと注ぎ,自分だけの特別なアサガオを咲かせようとしています。今からとても楽しみです。

ぎんがの郷コラム

藤井　昭宏

今年も梅雨の時期がやってきました。何処からか視界を覆うほどの大きい雲が突然姿を現し，「雨気」が辺りに広がっていく。ぽつぽつと「雨粒」が地面を叩くたびに「雨染み」が滲み，すぐに「雨糸」を引くほどに強くなる。静かに人間の喧騒を飲み込む「雨声」に、「雨蛙」の声が重なって聞こえてくると、「雨降れ降れ」と八代亜紀は歌い、「蛇の目でお迎え嬉しいな。」と子どもが歌う。

ただ雨が降り始めたという風景を表現するだけでも，六つの雨に関係する言葉が使え，歌も二曲歌えます。

近年では，ゲリラ豪雨という言葉をよく耳にするようになりましたが，もともと日本は，世界的にみても雨の多い国です。日本全体の平均年間降水量は約１７００ミリで、世界平均降水８００ミリの約二倍もあります。雨の多い日本では，それだけ「雨」に関係する言葉が多く存在します。古来より，文学作品にもたびたび描かれてきました。

四季のうつろいと共に，千変万化する雨と寄り添って生きてきた，日本人ならではの情感あふれる「雨」の言葉を調べてみてはいかがでしょうか。

参考文献『雨のことば辞典』

ぎんがの郷タイムス第３号は７月上旬にお届けする予定です。